

◇国際会議報告◇

IFRS-AC 会議（2023 年 4 月）出席報告

日本公認会計士協会 相談役 関根 愛子
ニッセイアセットマネジメント(株) 執行役員 運用本部副本部長
井口 譲二（報告者）

1. はじめに

IFRS 諮問会議（IFRS Advisory Council）が、2023 年 4 月 4 日及び 5 日にロンドンにて対面形式で開催された。IFRS 諮問会議は、IFRS 財団評議員会、国際会計基準審議会（IASB）及び国際サステナビリティ基準審議会（ISSB）に、戦略的な事項やその他優先事項をアドバイスするための諮問機関である。議長 1 名と委員 55 名の合計 56 名から構成され、先進国、新興国の財務報告関係者から幅広く選出されており、日本からは、日本公認会計士協会代表の関根愛子氏と日本証券アナリスト協会を代表する井口譲二の 2 名が委員として参加している。また、金融庁より企画市場局・企業開示課課長補佐の丸山友理氏がオブザーバーとして出席した。

なお、文中の発言者及び筆者の意見にわたる部分は、各人の私見であり所属する団体・組織の見解ではない。

2. 全体のスケジュール

2023 年 4 月の会議の議事一覧は、下記図表のとおりである。

図表：2023 年 4 月開催 IFRS 諮問会議 議事一覧

時間（ロンドン時間）	Agenda Paper 番号	議事
4 月 4 日	—	
9:15- 9:30	1	前回の諮問会議からのアップデート
9:30-10:00	2	IFRS 諮問会議の開催形態
10:00-11:00	3	IASB の活動報告
11:20-12:20	4	ISSB の活動報告
13:45-14:25	5	サステナビリティ開示基準の活用の促進について
14:35-15:20	5	分科会（サステナビリティ開示基準の活用の促進について）
15:45-16:45	6	IFRS 財団の歳入源について
4 月 5 日	—	

8:30- 8:35	—	開会
8:35- 9:00	7	IFRS 財団評議員会の活動報告
9:00-10:30	8	経営者による説明（MC）と統合報告（IR）について
11:00-11:45	8	分科会（経営者による説明と統合報告について）
11:55-12:25	5	分科会報告（サステナビリティ開示基準の活用の促進について）
12:25-13:00	5	サステナビリティ開示基準の活用の促進についての全体会
14:15-14:45	8	分科会報告（経営者による説明と統合報告について）
14:45-15:15	8	経営者による説明と統合報告についての全体会
15:15-15:30	—	議長によるまとめ等、閉会

本稿では、このうちの主な内容を説明するが、詳細な議事概要は、IFRS Advisory Council 2023 “Chairman’s Report IFRS Advisory Council April 2023” を参照されたい¹。

3. IFRS 諮問会議の開催形態（AP2）

IFRS 諮問会議の今後の開催形態について以下の提案がなされ、議論が行われた。

- ・ 年 2 回、対面で実施（必要な場合は、テーマを絞った形でオンライン会議を開催）
- ・ ロンドンだけでなく、IFRS 財団が事務所を置く国で開催（2024 年から開始）

年 2 回の対面開催とオンライン会議の併用については、賛同する意見が多かったが、ロンドン以外での開催については、意義の明確化、（欧州を中心とする）諮問会議委員の移動コスト増について多くの意見が出された。最後に、議長から、オンライン参加を許容しつつ、年 2 回の対面開催を実施する、ロンドン以外での開催についても多くの賛同はあったと考えるが、再度、諮問会議に諮るとの発言があった。

関根氏より、「提案に同意する。対面会議は非常に有用であるが、参加が容易なオンライン会議の併用も有意義である。IFRS 財団は国際機関として各地に拠点を保有しており、様々な拠点を知ることが有益であるため、ISSB の拠点で開催する提案にも同意する。」との発言があった。また、丸山氏から、「IFRS 諮問会議をロンドン以外でも開催することに賛成する。諮問会議と IASB や ISSB のアウトリーチを併せて行うことで、各地での効果的な広報活動の機会になると思料する。」との発言があった。井口（報告者）からは「提案に賛成する。ただし、多くを占める欧州地域の委員への配慮、SASB スタッフがいる米国での開催も考慮の余地がある。」と発言した。

4. IASB の活動（AP3）

¹ IFRS 財団 HP : [IFRS - IFRS Advisory Council](#)

Andreas Barckow 議長からのプロジェクトの説明後、最近の米国の銀行破綻の会計基準に与える影響など、幅広い議論が行われた。議長の主な発言は以下のとおり。

- ・ 気候変動リスクのプロジェクトについては、具体的な方向性は決めていないが、基準を開発するのではなく、財務諸表への反映の明確化を目指すものとなる。これに伴う IAS 第 36 号「資産の減損」への影響も、減損テストへの反映の明確化を目指すものであり、基準の変更は考えていない。
- ・ 実務記述書「経営者による説明」の方向性は決めていない。ISSB のアジェンダ協議等での優先順位付けを踏まえ、考えたい。
- ・ 最近の米国銀行の破綻事例は、あまりにも急激な破綻であり、会計基準で対処することは難しいと考える。

5. ISSB の活動報告 (AP4)

Emanuel Faber 議長、Sue Lloyd 副議長から、以下の説明があった。

- ・ 最初の基準策定がほぼ終了したので、グローバルでの幅広いアドプションに向け、証券監督者国際機構 (IOSCO) 等、各種機関との協議を行う次のステップにある。
- ・ 今後、投資家を含めた関係者の理解度を深めるための Capacity Building 戦略を立て、教育プログラムの作成などでパートナーとの連携を深める。

関根氏から「財務諸表とサステナビリティ情報の違いも踏まえて、IAASB との連携のレベル」について質問したところ、Lloyd 副議長からは、ボードレベルでの監査と保証の違いや保証主体といった戦略的議論だけでなく、スタッフレベルでの技術的議論も続けていることが説明された。

6. サステナビリティ開示基準の活用の促進について (AP5)

ISSB のサステナビリティ開示基準を各国に広めていくアプローチについての議論が行われた。委員からは、欧州委員会との interoperability の確保や規制当局との関係を深めることの重要性、主要な関係者は、会計分野では、作成者と利用者だけだったが、サステナビリティ分野では、ESG データ提供機関などに広げる必要があるなどの意見が出された。

7. IFRS 財団の歳入源について (AP6)

IFRS 財団の歳入源について、IASB に加えて、ISSB の基準も策定される中、今後とも同じ歳入源でよいかなどの議論が行われた。委員からは、更なる歳入源を確保すべきだ、現在は ISSB の基準の定着を図るタイミングであり、更なる歳入増の施策を考えるのは早いのではないかと、など様々な意見が出された。

関根氏からは、「拠出ではなく使用料をベースに徴収が行われる場合、その使用単価をどのようにするかという点も検討が必要である。」との発言があった。

8. 経営者による説明（MC）と統合報告（IR）について（AP8）

ISSB と IASB の基準のコネクティビティにおいて、MC と IR が果たす役割について話し合われた。委員からは、企業報告全般の質向上において、IR の役割に期待する意見が大多数を占めた。一方、MC や IR に基づいた成果物を基準とし、強制適用の対象とすべきか否かについては一致した見解はなかった。主な意見は以下のとおり。

- ・ IR には、統合報告フレームワークが果たしたような、企業報告全般（財務諸表とサステナビリティ開示）の改善と投資家の意思決定への大きな貢献が期待される。
- ・ MC と IR は中長期的には統合されることが期待される。また、その過程で、MC で欠けているガバナンス項目なども加えることを考慮する必要がある。IFRS 財団には、MC 改善の役割があり、規制当局者にも働きかける必要がある。

関根氏からは、「コネクティビティは重要であるが、最終的にここではどのようなものを目指しているのか、スライドにある投資家に焦点を当てた一般目的財務報告という理解でよいか確認したい。」との発言があった。井口（報告者）からは「統合報告は日本の企業報告全般の改善に大きく寄与した。MC のみならず、S1・S2 の開示の改善にも寄与すると期待される。」と発言した。

9. おわりに

今回も、多くのテーマについて話し合われたが、特に、IASB、ISSB の基準策定における統合報告（IR）の活用に対して注目度が高かったと考える。実際、当会議後、4月25日に IASB・ISSB の共同主催という形で Integrated Reporting and Connectivity Council²のコンファレンスが開催されるなど、大きな動きを見せている。

諮問会議における事務局の説明の中では、統合報告の成功事例として日本での取り組みが挙げられていた。サステナビリティ開示において、日本が長い経験と強みを有し、貢献できる数少ない分野であり、今後、当プロジェクトにどのように関わっていくかは非常に重要と感じた。

² IFRS 財団 HP : [IFRS - Integrated Reporting and Connectivity Council](https://www.ifrs.org/what-we-do/our-work/integrated-reporting-and-connectivity-council/)